



Solan Primary School  
4th grade news letter









# Venture





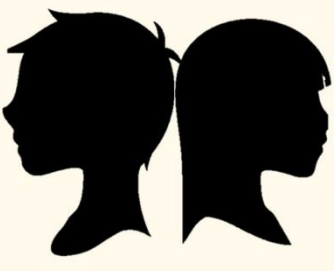




# Fourth

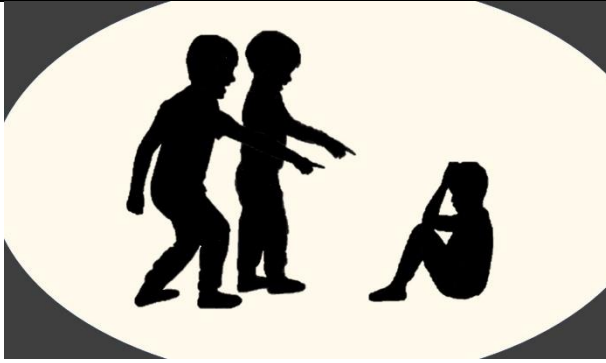
2023 May 25

## 運が良い人・運が悪い人

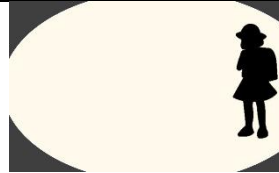
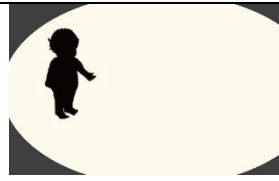
<p>あなたは運が良い方ですか それとも悪い方ですか</p>	<p>今週の火曜日の授業。 ←の問いから始めました。 挙手で確認したところ、先週のお話が 生きているのか、圧倒的多数が「運が良 い」に手を挙げました。</p>
	<p>イギリスの BBC というところで、「運 の良し悪し」についてこのような実験を したことがあります。</p> <p>「運が悪い」と普段から思っている人 を、</p>
	<p>たくさん集めてきて、</p>

		<p>反対に、自分で「運が良い」と思っている人たちも</p>
		<p>たくさん集めてきました。 そして、その上で、「くじの当たり率」の違いを調べたのです。</p>
<p>□ □</p> 	<p>□ □</p> 	<p>「運の悪い」と思っていた人たちは、 100 回中、</p>
<p>1 □</p> 	<p>□ □</p> 	<p>1 回くじに当たったそうです。 では、「運が良い」と思っている人たちは、 100 回中何回くらいくじに当たったと思いますか？ 「50 回！」 「99 回！」 「100 回！」</p>
		<p>（子供たちは次々に答えました。運が良いと答えているのですから、相当な運の持ち主だと考えたようです。） 答えは・・・</p>

<p>1回</p> 	<p>1回</p> 	<p>1回です。「エ〜!!」という子どもたちの驚きの声) つまり、運が良いと思っている人も悪いと思っている人も、降ってきている運の量は変わらないということが分かったのです。</p>
<p>運が悪い人</p> 	<p>運が良い人</p> 	<p>でも、やっぱり周りから見て「運が良い人」というものは存在します。反対に「あの人が本当に運が悪いよね」と周りから見えている人もいます。しかも、自分でも運が良い・悪いと思っているのです。</p>
<p>運が悪い人</p>	<p>運が良い人</p>	<p>この違いは、一体なぜ生まれるのでしょうか。 (みんな、大いに首をかしげていました。)</p>
<p>なぜ、ちがいが生まれるのか</p> 		<p>この「運の良しあし」をもうちょっと詳しく見るために、ある男の子と女の子の人生を見ていくことにしましょう。</p>
		<p>まずは男の子の人生です。 男の子は小さい頃から体を動かすことが大好きでした。野をかけ山をかけ元気いっぱい成長した男の子は、小学生になった時に自分が他の子たちと少し違うことを知ります。</p>
		



男の子は吃音症といって、言葉をうまく出すことができない症状を抱えていました。何度話しても「ぼ、ぼ、ぼくは」と言葉がどもってしまう様子を見て、周りの友だちがからかいはじめ、ついにいじめが始まりました。もともと元気で明るかった男の子は、どんどん暗く物静かになっていきました。



続いて女の子の人生です。  
女の子は、小さい頃からお話するのが大好き。自分の好きなこと、気になること、色んな人といっぱいおしゃべりして大きくなりました。そんな女の子は、幼稚園に上がったころからこんなことを言われ始めます。

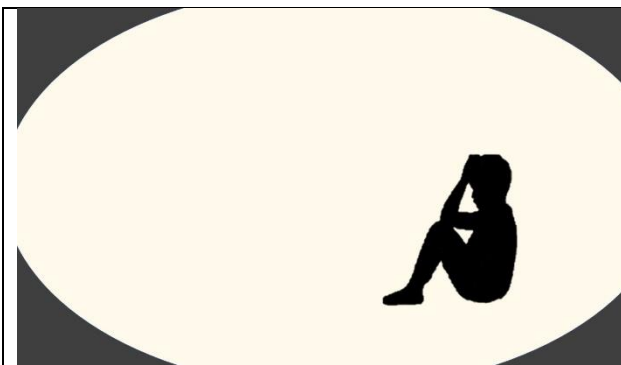
「あなたの声って、ヘンね」  
そう、女の子は他の人に比べて少し特徴的な声をしていました。



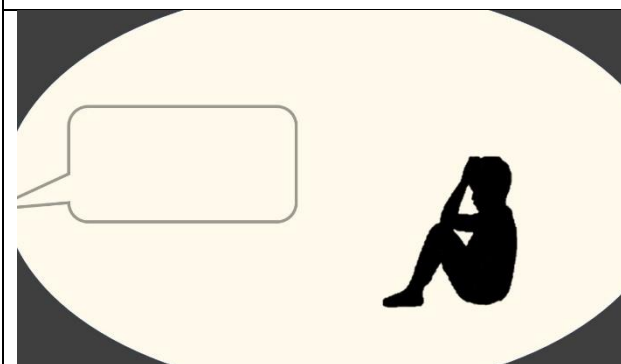
その声を笑われ、からかわれ、そして、いじめが始まりました。「女の子が声を出すたびにクラスみんなで笑う」なんてひどいいじめも始まり、もともと話し好きだった女の子はどんどん無口になっていきました。

二人は運が良い方ですか  
それとも悪い方ですか

二人は運が良い方ですか、それとも悪い方ですか。(多くの子どもたちが、「悪い」と答えましたが、何割かの子は先があると予想したのか「良い」と答える子もいました。)



男の子の人生の続きです。  
男の子は、毎年、7月になると七夕の願い事で次のように神様にお願いをしました。  
「普通に話せますように」  
けれど、何年書いてもその願い事は叶いませんでした。



そんな男の子の様子を見て、アドバイスをした人がいます。その子の、お父さんでした。なんと、アドバイスをしたと思いますか？  
「気にしなくていい」  
「そんな友達ほっときなさい」  
「そのうちよくなるよ」  
「自分の好きなことをみつけよう」  
優しいアドバイスが並びました。



男の子のお父さんは次のようにアドバイスしたそうです。  
「夢を持つな」(再び「エ~!!」という驚きの声。「ひどい」「かわいそう」との声も上がりました)  
男の子も、みんなと同じように、ショックを受けたそうです。「僕は、普通に話せることを夢に見ちゃだめなの？」そのように思ったそうです。  
  
お父さんは、次のように続けました。  
「夢は大きすぎると、それが達成できなくて自分を傷つける事がある。だから、夢を持つんじゃないで、」

夢をもつな  
目標をもて



目標をもちなさい。目標は小さな小さな一歩でいい。今の自分からほんのちょっと頑張ればできそうなこと、それが目標。その目標を達成したら、また少し先に目標をおけばいい。そうやって進んでいけばいいんだよ。」

夢をもつな  
目標をもて



男の子は、短冊に願い事を書くのをやめました。そして、お父さんのアドバイス通り、目標を立てることにしました。最初の目標は、「独り言」をどもらないように話すことでした。

一人で、テクテクと道を歩きながら話してみました。

「空は青い」「川は流れる」「花は咲く」独り言は、上手に言えるようになりました。

次の目標は「犬と話すこと」です。人と話すのは、まだ緊張します。近所の犬に向かって「僕の名前はね…」と話しかける練習をしました。

その次の目標は、1人の友達に話すこと。その次の目標は、2人の友達に話すこと。

そうやって、目標を達成するうちに男の子は話すのが好きになっていました。そして、いつかはこの声を多くの人に届けるような仕事がしたい、そんな夢をもつようになりました。それでは、男の子の現在の声を聴いてみましょう。



「おはようございまーす！」  
(ニュースが始まった際の元気のよい挨拶の音が流れる)



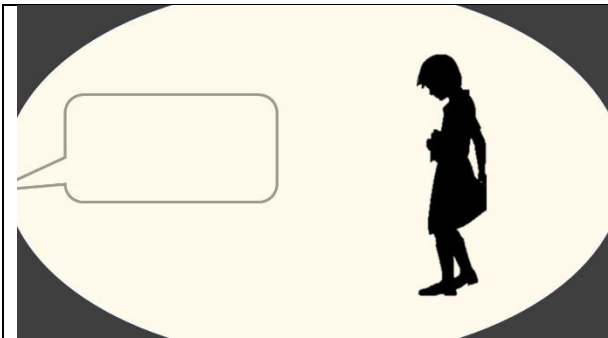
男の子の名前は、小倉智昭さん。  
「同一司会者による全国ネットのニュース情報番組 22 年」という日本最長記録を持つ、日本を代表するニュースキャスターです。小倉さん、吃音はなおったんでしょうか？(何度もどもりながら話す小倉さんの声が流れる)  
実は、吃音は治っていなかったんです。でも、目標を一つ一つクリアする中で「意識すればどもらずに話せるようになる力」を手に入れたんですね。



小倉さんは、いつもスタジオに入る際に自分に言い聞かせていた言葉があります。  
「俺は大丈夫だよ。」  
「司会やらせると一番うまいよ。」  
そうやって心の中で自分に言い聞かせて、毎日スタジオにはいていたんですね。



女の子の人生の続きです。  
いじめられて、声が出せなくなってる子にアドバイスをしたのは、女の子のお母さんでした。



なんとアドバイスをしたと思いますか？  
「別の友達を創ったらいいよ」  
「気にしないで他の楽しいことをみつけたら？」  
「いつかは言わなくなるから放っておきなさい」  
お母さんは次のようにアドバイスをしました。



悪いところをかばっていたら、ますます悪くなる。声を出すようなクラブ活動に入りなさい。

「悪いところをかばっていたらますます悪くなる。声を出すようなクラブ活動に入りなさい。」(再び子どもたちからエーという声)  
女の子は、お母さんのアドバイス通り、声を出すクラブに入れたのでしょうか。



悪いところをかばっていたら、ますます悪くなる。声を出すようなクラブ活動に入りなさい。

女の子は、入ったのです。  
「放送研究部」という全校放送を担当する部活に入りました。「入る」と言った瞬間、ものすごい量の勇気を振り絞ったことは想像に難くありません。いじめられているその声を、ほぼ毎日全校に向かって発するのですから。  
けれどもその部活動がきっかけとなり、女の子の生活は変わります。堂々と話すうちに、いつしか笑ったりからかったり人はいなくなりました。さらに、日々マイクに向かって話す中で声を出すことが「楽しい」と思うようになったのです。  
この声は、もしかして悪いわけではないのではないのかもしれないとも思い始めました。





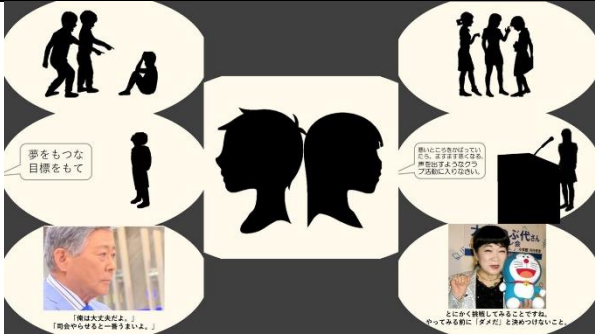
そして、将来はこの声をみんなに届ける仕事に就きたいと思うようになりました。女の子の夢は、叶いました。声優という、声で登場人物を演じる職業に就いたのです。それでは、現在の女の子の声を聴いてみましょう。



「こんにちは。ぼくドラえもんです。」  
 (再びどよめく子どもたち) 日本一有名な声優とも言われる大山さんの声が大勢の人に届き始めたのは、中学校のクラブ活動がきっかけだったのですね。その大山さんは、「夢を叶える」ということについて次のように話しています。



「とにかく挑戦してみることでですね。やってみる前に『ダメだ』と決めつけないこと。」



ここまで、二人の人生を見てきました。それでは、もう一度聞きます。



二人は運が良い方ですか、それとも悪い方ですか。(『運が良い』『良くなった』と子どもたちは口々に答え始める。)

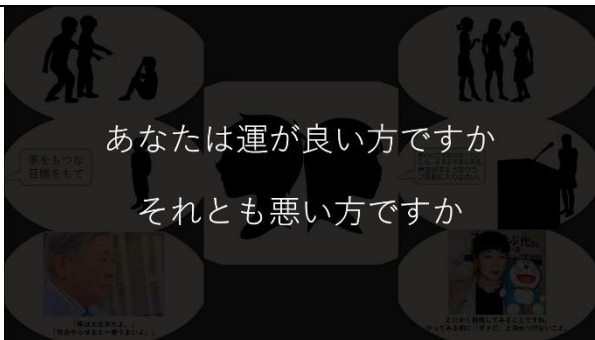


運が良くなったとするなら、なぜ二人の運命は大きく変わったのでしょうか。

「アドバイスを素直に聞いた」  
 「目標に挑戦し続けた」  
 「自分に言葉を言い聞かせ続けた」  
 もう一つ聞きます。

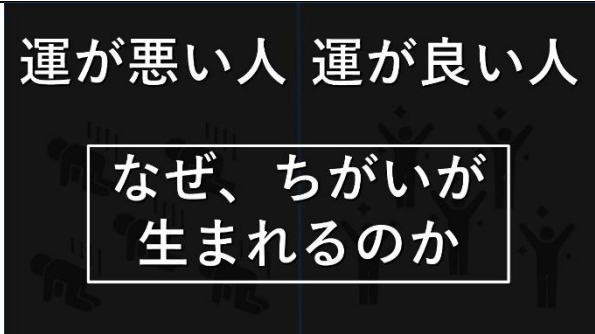
運が良いかは、最終的には、誰が決めるのですか？

「自分！」（全員が口をそろえました。）

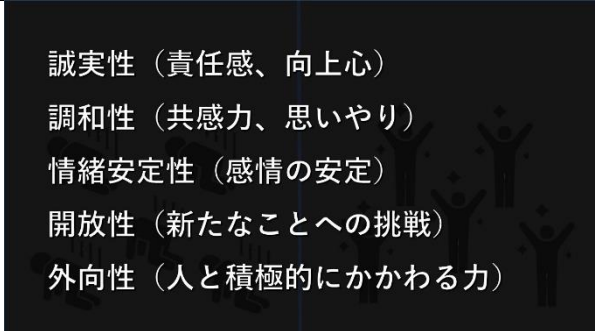


みんなにも、もう一度同じ質問をします。

あなたは、運が良い方ですか。それとも悪い方ですか。これまでの人生を振り返ってそーっと考えてもらいなさい。



今日は、運が良い人・悪い人の違いについて勉強してきました。最後に一つだけ、みんなに耳寄りな情報をお伝えして今日の授業を終わりにします。



ある脳科学者の方によると、「運のちがいは」「性格の違い」であることが研究によって分かってきたそうです。

正確には、大きく 5 つの要素があります。誠実性、調和性、情緒安定性、開放性、外向性の5つです。

「運が良い人」は、この5つの内2つの力がずば抜けて高いんだそうです。

どれと、どれだと思えますか？（挙手にて確認しました。）

正解は「開放性」と「外向性」です。

新しいことにどんどん挑戦ができて、新たな出会いを楽しんで色々な人と積極的にかかわれる人は、明らかに運が良いという研究結果が出てきたのです。最初に「降ってきている運の量は変わらない」と伝えましたが、その運は雨にもよく似ています。降り注いでいる量はみんな同じ。けれど、普通の人はその雨をコップくらいの器で受けているのに対して、運が良い人はたらいくらいの大きさで受けているのだそうです。

新しい出会いを楽しみ新しいことに挑戦できる人は、降ってくる運をたくさん受け止めることができるんでしょうね。

これで今日の授業を終わります。

こんな授業を、今週の道徳で行いました。

ご参加いただいたお家の方々、また先生方、どうもありがとうございました。

**☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください**

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

